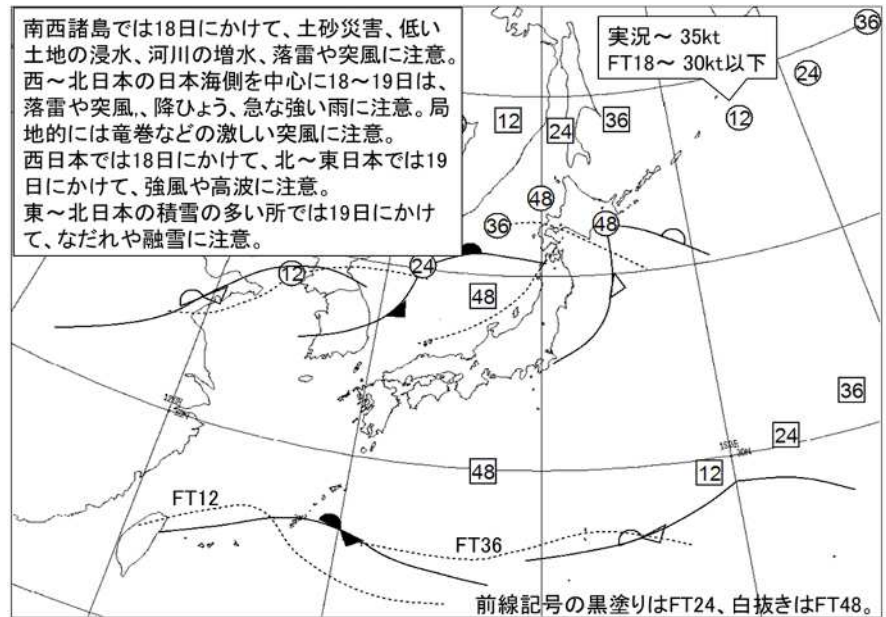


## 1. 実況上の着目点

- ① 500hPa5220m付近の寒冷渦に対応した低気圧が千島近海にあって、東北東進。小笠原近海の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、全国的にやや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。
- ② 南西諸島周辺では、①の高気圧の縁を回る下層暖湿気が流入し、1時間に10mm前後の降水を解析。沖縄の南では雷を検知。
- ③ 黄海に低気圧があって東進。
- ④ 衛星画像では、大陸から東シナ海にかけて黄砂がみられ、視程5km未満となっている地点がある。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は18日には日本の東から日本のはるか東へ移動する。高気圧後面の下層暖湿気が北上する流れが強まり、17日夜までに南西諸島付近で前線が顕在化し、18日にかけて南西諸島から小笠原近海にかけてのびる。前線に向かって850hPa  $\theta$  e336K以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島では18日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。
- ② 1項②の低気圧は500hPa5580m付近の $-21^{\circ}\text{C}$ 以下の寒気を伴うトラフに対応し、18～19日は前線を伴って日本海を北東進、前線が西～北日本を通過する。前線や低気圧に向かって850hPa  $\theta$  e318K以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い強い雨の降る所がある。西～北日本の日本海側を中心に18～19日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項①の低気圧と高気圧との間、2項②の前線や低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。西日本では18日にかけて、東～北日本では19日にかけて、強風や高波に注意。
- ④ 2項②の前線や低気圧に向かい下層暖湿気が流入し、西～北日本では19日にかけて、最高気温が $25^{\circ}\text{C}$ 以上の夏日になる所がある。暑さに慣れていない時期のため、熱中症などの体調管理に注意。また、雪解けが進むため、東～北日本の積雪の多い所では19日にかけて、なだれや融雪に注意。
- ⑤ 西～北日本では18～19日は、視程10km未満の黄砂が予想されていることに留意。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

**4. 防災関連事項 [量的予報等]** ① 雨量(18時からの24時間)：奄美・沖縄120mm。

② 波浪(明日まで)：北海道・北陸・中国3m。

**5. 全般気象情報発表の有無** 発表の予定はない。